

基礎実習

[実習] 第3学年 後期 必修 4単位

《担当者名》○橋本竜作 hashi-ryu@hoku-iryo-u.ac.jp

太田 亨 才川悦子 下村敦司 田村 至 中川賀嗣 榊原健一 永見慎輔
福田真二 飯泉智子 小林健史 前田秀彦 柳田早織 葛西聡子 辻村礼央奈
若松千裕

【概 要】

基礎実習は、4年次の総合実習への導入を容易にするために行われる実習である。これまで学んだ専門知識をもとに言語聴覚療法の臨床に必要な情報収集、検査、行動観察の実際を見学し、評価の実際、臨床における考え方を知り、それを通じて、医療人としての信条および習慣を修得する。実習期間中は病院或いは施設で臨床実習指導者の下で実習を行う。

【学修目標】

言語聴覚療法と業務の実際を理解するために、言語聴覚療法の具体的な内容や業務について説明できる。

1. 医療職業人としての基本的な態度を身につけるとともに、障害児・者と家族等の人権を尊重し、保護することの重要性を説明できる。
2. 言語聴覚障害をもつ方と接することで、言語聴覚障害をもつ意味、言語聴覚士の役割について説明できる。
3. 臨床現場での実習を通じて、学内で学んだ知識と臨床を統合することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	見学実習	医療職業人に求められる基本的態度および行動を学ぶ。 評価に際して他職種から得るべき情報の種類と収集方法について学ぶ。 患者、家族の同意を得ながら検査し、それに基づいて対応していくことの重要性を学ぶ。	臨床実習指導者 (全担当教員)
	評価・記録に関する実習	評価・治療場面を見学し、その内容を実習日誌に記載する。 適切な日誌の作成および保管法を学ぶ。 検査の目的、意義、限界を学ぶ。 検査の施行、結果の解釈を学ぶ。 評価報告書の書き方を学ぶ。	臨床実習指導者 (全担当教員)

【授業実施形態】

面接授業

※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

実習終了後に提出された「臨床実習指導者評価」、成果物（各種提出物）により総合的に判断する。

【教科書】

「実習の手引き」・北海道医療大学言語聴覚療法学科 編

【参考書】

適宜、紹介する。

【学修の準備】

「実習の手引き」をよく理解し、実習の準備を行うこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP1) 生命の尊厳と人権の尊重を基本とした幅広い教養、豊かな人間性、高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を身につけている。

(DP2) 最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。

(DP3) 言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

(DP4) 関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。

（DP6）社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および言語聴覚療法科学の開発を実践できる能力を身につけている。

【実務経験】

田村至 永見慎輔 飯泉智子 葛西聡子 小林健史 前田秀彦 柳田早織 辻村礼央奈 若松千裕（言語聴覚士）
太田亨 中川賀嗣 才川悦子（医師）
橋本竜作（公認心理師）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での経験を活かし、基礎実習における言語聴覚士としての実践力の養成を目指す教育を行う。
（言語聴覚士、医師、公認心理師）